手術療法の概念

癌の手術は、乳房の腫瘍に対する手術と腋窩のリンパ節に対する手術とに分けて考えます。乳房の手術としては、乳房を全て切除する乳房切除、部分的に切除する部分切除(温存術)があります。腋窩の手術には、センチネルリンパ節生検、腋窩郭清があります。手術の基本概念は乳房や腋窩リンパ節、いわゆる、局所に存在する癌細胞を適格かつ確実に取り除くことにあります。乳腺部分切除にあたっては乳腺切除断端に癌細胞が残らないようにすることを目標としています。断端の状況と乳房部分切除の適応は現在も議論のあるところで、ゴールドスタンダードのようなものはないと思います。個々の状況、すなわち、癌の性格、進展状況、年齢、またその他のさまざまな要因による影響を受けますから、個々の症例でベストと思われる道を選択するしかいえないと思います。ただし、明らかに乳腺切除断端に癌細胞が露出するような形で癌細胞が遺残することは、好ましくないと思いますし、特に増殖の速いタイプの癌や悪性度の高い癌では確実に断端を陰性にすることを目指すべきであると考えています。現在の乳房温存療法は手術と放射線の集学的治療によって始めて成立します。放射線療法が極めて強力な治療法であることは確かですが、手術は手術としてすべきことをきちんと行うべきで、現在行われている国際臨床試験の多くが、断端は陰性を目指す方向性をとっています。